

美味しい・楽しいイベント

しぼりたての味を堪能 新酒まつり

三月七日から八日にかけて、道の駅「酒蔵奥出雲交流館」では、地元で契約栽培された酒米「改良八反流」と「五百万石」を使った新酒「銘酒仁多米」が出来上がり、新酒まつりが開催されました。

新酒の試飲コーナーや酒蔵見学、イノシシ汁の無料サービス、もちつきなどのたくさんイベントがあり、二日間、県内外から多くの方が訪れ賑わいました。また、三月二十二日には、籾上清酒合名会社でも新酒まつりが行なわれ、多くの人で賑わいました。



酒蔵奥出雲交流での新酒まつりの様子

海と山の幸に舌鼓 恒例のカキまつり

今年で十二回を迎える恒例のカキまつりが三月八日、よこただんだん市場を会場に開催されました。

広島市中区江波地区の皆さんが、本場広島のカキを格安で販売し、来場者は、大粒で新鮮なカキを使った焼ガキやカキフライなどに舌鼓を打っていました。

当日は、同地区と交流を深めている横田地区川西自治会の皆さんによる手打ちそばやエリンギ、舞茸などの特産品コーナーも設けられ、県内外から訪れた多くの方が、海と山の幸を楽しみました。



カキまつりの様子

子どもたちに絵本の楽しさを伝えよう

子供たちに絵本の楽しさを伝えようと、町内の読み語りボランティアによるお話し会「きらめきときめきフェスティバル」が三月八日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

会場には、子育て中のお父さん、お母さんなど親子連れ約二百人が訪れました。

オープニングは、千原さつきさんによるエレクトーンの演奏、また楽しい読み聞かせ



三成小学校二年生によるオペレッタ「かみ」の様子



やパネルシアター、三成小学校二年生の児童によるオペレッタ「かさこじぞう」など多彩な出し物が披露されました。



パネルシアターの様子



子ども達は楽しい時間を過ごしました

読み語りグループおはなしトロッコによる人形劇「三まいのおふだ」では、舞台から飛び出てきそうな迫力ある人形の動きや巧みな話術に、子どもたちは目を輝かせながらお話しに引き込まれていました。

参加者からは「とても集中して観ている子どもの姿に感動しました。自分も子ども達も楽しい時間を過ごせて心の栄養になりました」など感想があり、改めて絵本の世界の楽しさ、大切さを感じていました。

地域の憩いの場 町内の2自治会館が竣工

平成20年度のコミュニティ施設整備事業として建設が進められていた大馬木第二本郷、奥湯谷下の自治会館が竣工しました。

総事業費は2施設で約2千3百万円。事業費の70%を国が負担する有利な起債を活用して建設されました。今後地域の憩いの場やコミュニティ施設として、様々な活動に利用されます。



大馬木第二本郷自治会館



奥湯谷下自治会館

料理を通して命の大切さ学ぼう 一味同心塾で料理教室



真剣に取り組む小学生

二月二十七日、料理研究家の中村成子さんが館長を務める一味同心塾で、亀高小学校の五・六年生十六人が料理体験をしました。

今回作ったのは、同塾の水田で採れた有機栽培米の「稲のはな」、奥出雲和牛など、地元の食材を使った牛肉と玉ねぎのシチュー・パセリライスをはじめ、りんごのポテトサラダ、きな粉のパンナコッタなど三品。

児童たちは、中村館長から道具の使い方や調理方法などの指導を受けながら真剣に取り組んでいました。

児童からは「奥出雲町にも貴重な食材がたくさんあることがわかった」など感想があり、出来上がったものを一緒にいただきながら「食べ物は体だけでなく心も養うことを教えていただきました。中村館長は「日本の食文化は、日本人の生命の基本。これからも子ども達に本物の食を伝えていきたい」と話されました。

児童たちは、料理を通じてふるさとへの愛、生きることは自然から命をもらっていることなどを学びました。